

高島屋京都店「アートの子カラ」出展
紫舟の新シリーズを京都で初展示
紫舟 ～銀箔、硫黄、墨の競作が生む異界～



新シリーズの書「壽」

書を超越した「新しい書」を、京都府で初披露いたします。展覧会は2023年5月24日～28日に高島屋京都店「アートの子カラ」内で開催。会期中の27日（土）は、紫舟本人が作品をご案内いたします。

この作品は、これまで紫舟が欧米の個展での挫折から学んだ、西洋美術と日本文化の間に横たわる絵画の見方や認識の違いを超え、日本文化を世界に発信するために、誕生しました。

背景を描かない日本画や書の「余白の美」は、西洋絵画の基準では、未完成と捉えられます。「書」の墨蹟の勢いはそのままに、西洋画の持つ堅牢さを取り入れた作品を作れないか。「墨」と「火」「金/銀」「硫黄」の四つの要素をまとめ上げたいと考えました。しかし火で和紙は焼けてしまう。そこで、作品の支持体としてヨーロッパでルネサンス期に用いられていた黄金背景地に注目しました。

長い試行錯誤の末、「西洋の幻の古典画法」による重厚さと奥行きのある背景と、圧倒的な集中力による「東洋の一筆書き」で、古典絵画と見まがう奥行きと深い魅力をたたえる作品が世界で初めて完成しました。千年以上の歴史を誇る京都の地で、新しい書として発表します。

西洋絵画に比肩する日本の新しい表現を、ぜひご覧ください。



新シリーズの書「吾唯足知」



紫舟（シシュウ）

書家／芸術家／大阪芸術大学教授

「書」を平面や伝統文化の制約から解放した『三次元の書』をはじめ、書が絵画と融合した『書画』、象形文字が再び命を宿し動き始める『メディアアート』など、伝統文化を新しい斬り口で再構築した書の作品は、唯一無二の現代アートと言われている。フランス・ルーヴル美術館地下会場で金賞を受賞するなど、日本だけでなく世界でも活躍。天皇皇后両陛下（現上皇皇后両陛下）が『紫舟』展に行幸啓された。NHK大河ドラマ「龍馬伝」美術番組「美の壺」の題字も手掛ける。